

鐵鋼の獨立自給策に對する討議

法學士 吉 川 雄 輔

私は製鐵所に奉職を致して居る者でございます、唯今座長より御指名でございますが、本日は皆さんの御意見を拜聽に参りましたので、私自身は別に之に付ての用意もございませぬ、併し折角御呼出しを受けて此處に上らぬと云ふのも少し失禮のやうでございますから、出るは出ましたが、さて申上げやうと云ふ意見もございませぬ、唯私が平素考へて居ります一二の點だけを申上げて此場の責を塞がせて載きたいと思ひます。

鐵の必要と云ふことは今更申げますほどのこともございませぬ、殊に戦争に依つて鐵の必要を感じると云ふことは今回の戦役に始つた譯ではないと思ひます、併し今回の如き大亂に際しましては益々其必要と云ふことが痛切に感ぜられて参ります、我國の八幡製鐵所の設立と云ふものも明治二十七八年の戦役後に出来たのでありまして三十七八年の戦役で二倍以上の擴張をされて居ります、歐羅巴に於きましても獨逸の鐵の發達と云ふものは七十年の普佛戦争後であります、亞米利加の鐵の發達と云ふものも南北戦争後であります、是は皆戦役に依つて大いに鐵と云ふものの必要を感じました結果と思はれます、其前に於ても工業上其他のものより鐵の必要を感じて居りましたけれども、一時突發的の戦争に於て急激に膨脹する需要に刺戟せらるゝ爲めであります、今回の大戦役が始つて鐵が非常に缺乏した事は困つたものだ何とかして明日から自給する工風は無いかと仰しやつても、唯今野呂博士の御話のやうに製鐵事業は急に今日始めて直ぐ明日から供給が出来ると云ふものでないと思ひます、殊に此際御注意を願つて置き度いとは鐵の必要と云ふことが非常に刺戟されました鐵のことばかり考へて居りますが、又是が平時の状態に復しますと直ぐ喉許過ぎて熱さを忘るゝ様に鐵の事も忘らるゝ事でありませぬ、從來の歴史の示す所に依りますと戦争後には必ず恐慌と云ふことが來ると思ひます、それは此戦争と云ふ突發事件がありますと、總て軍事に對する供給の物品と云ふものは特別大きな組織で供給されますが、或年限を経ますれば是が平時状態に復らなければならぬ、戦争が濟めば一年中海軍擴張

を爲して居る譯には行きませぬ亦た一年中軍器の擴張をして居らるゝものでもありません、それ故に戰時状態から平時状態に移ります際には必ず恐慌が來ると思ひます、是は經濟の歴史の方ではどの書物にも書いてあります、恐慌の原因は幾種もありますが、此戰後の恐慌は我が國でも明治二十七八年或は三十七八年尙遡つて明治十年の戰争後にも經驗をして居ります、歐羅巴の何れの國に於きましても矢張り戰争後はさうであります、戰争の現實状態は勿論戰争が濟みましても尙ほ軍需品の補充と云ふものがある、是は或年限續きます、其補充が終つた後に於て平時の状态に移ります際には必ず恐慌が來ります、是は皆經濟の書物に書いてあることであります、此戰争の補充の續きます間は鐵が必ず多く必要である、此必要の期間は鐵の供給もどうかせねばならぬと云ふことが頭に残つて居りますけれども、是れが平時状態に復りますともう忘れたかの如くである、從來我國に於て何人が鐵の自給など云ふことを唱へた事がありますか軍器の獨立と云ふことは唱へられて八幡の製鐵所も出來ました吳の製鋼所も出來ました併し鐵の自給策など云ふとは今日が初めてはありませんか、歐米から鐵の輸入が困難になつたから今日から獨立自給しろと申しても物には順序がありますからさう簡單には參りません平素は鐵の保護獎勵など云ふことは全く度外視して今日直ぐに供給の方策を立てると申しますことは少しく無理では無いかと思はれます唯今回のやうな機會に於ては一向が斯う云ふ困難なることがあつたと云ふことを能く頭に銘して置くことが必要であります、長い間御互に能く之を研究いたしませぬときには亦同じやうな状態が參るだらうと思ひます、鐵の需要と云ふものは日本に於ても矢張り十年毎に二倍づゝに進んで居ります、鐵の供給力を研究いたしても需要の方と同時に益々増すと云ふことで無ければなりませんから、此事は餘程平素から考へ、尙ほ斯う云ふ時に際したることを能く將來記憶に遺して參りたいことと思ひます。

それで今日御配付の書類を見ますと、製鐵事業の自給策と云ふことをどう致すか、此際自國で獨立して之を供給する根本義を解決したいと云ふ趣旨のやうに考へます、私の考へますには、今日鐵が必要であるから明日から直ぐ之を増すと云ふことは、野呂博士の、數十年以來度々此事業の必要を唱へられて居つてもなか／＼人々の頭に這入らないで今日非常に困難な際になつてどうかしたいと云ふ話があるがさう急に出来るものでないと云ふ話であります、

是は私もさうだらうと考へます、それで私は空漠な餘り具體的のことでありませぬけれども、鐵の供給を十分にすると云ふことに付ては二つの條件がございます、それは第一に幾ら鐵が欲くても原料と云ふものがありませぬときは鐵は出來ませぬ、第二には又幾ら原料があつても之に對する技術が伴はなければ鐵と云ふものは出來ない、鐵の問題は根本義に觸れますれば技術家と原料と云ふとの此二つに歸着すると思ひます、どちらの一つを缺きましても鐵の獨立と云ふことは出來ませぬ、それで唯今野呂博士から御話の如く根本の原料は何かと云ふと、鑛石と石炭であります、此石炭に付ては日本に於て將來多少困難はあると思ひますが先づ差支なきものとしましても、鑛石に付ては是はどう云ふ方法かで此根本の問題を能く調査研究すると云ふことが一番必要だらうと思ひます、幾ら獎勵いたしても鑛石が無ければ鐵は出來ませぬからして、外國などに於きましても鑛山の探檢會社が出來て居ります、是は營利會社であつて鐵に限りませぬけれども、總て鑛山のやうなものを探檢いたします、それで一年中技術家を探檢に従事させる、而して探檢する所の技術家には貯蓄するだけの費用の支出は致しませぬけれども、食ふに困らぬで旅行が出来るだけの費用は供給して居ります、併し其技術家が數百萬圓或は數千萬圓の價值のある山を發見した場合に於きましては其發見者に對して百分の幾らと云ふ金を懸賞的に與へる、平生は漸く自分が自活して行くだけの金を貰つて居りますが、或場合に一千萬圓の山を發見しますれば百萬圓も金が貰へると云ふ希望を有つて草鞋掛けて出掛けます——尤も外國人だから草鞋は穿きませぬ——是は會社自身の營業と致しても平素會社が技術家に對して給料と旅費とを支給して居りますが、或大きな山を發見したときは其會社は大收入を得ることになりますから、相當に會社の營業が立つて行くのでございます、日本に於きましては現今は鐵山の探檢などに付きましても之を發見して誰か買入れる者があるかと云ふと、甚だ心細いと思ひます、それはどうかと云ふと、鑛石を使ふ人でなければ買はない、使ふ人と云へば甚だ少い、唯今大きく使つて居る所は八幡の製鐵所ぐらゐであります、それで發見した山は買手が無い、それなら鑛石は必ず買うかと云ふと、是もなか／＼さう思うやうにならぬ、骨を折つて山を發見して之を買う人が無いと云ふことであるから、どうも草鞋掛けて探して歩いて見付けても寶の持腐れになるので、それで勉強して之を見付ける動機を與へ

ることが少い、私は素人で尙ほ鑛山のやうなものには有るか無いか能く分りませぬが、必ずやあるだらうと思ひます、日本内地に無くとも朝鮮或は滿洲支那にはありませう、必ず鑛石は内地の供給に依つてやらなければならぬものでもないだらうと思ひます、それは獨逸英吉利の製鐵事業に於きましても或は西班牙とか瑞典とかより多量に輸入して居ります而して、何れも鑛石を一千哩以上の距離から運んで居ります、それ故何れに於きましても最も便利なる土地で鑛石の所在を發見し、又それを採り得るやうな研究をすると云ふことが一番必要だらうと思ひます。

原料の方は左様であります、もう一つは技術家のことであります、日本では技術家の待遇が餘り宜しくない、技術家を優遇しなければ進まぬ、化學工業とか電氣工業とか總て國富を増すもの、本は技術家が一番の本になつて居ります、此技術家はどうか云ふ工合に社會に待遇されて居るか、現今に於ても過去に於ても製鐵事業の振はないと云ふことは技術の不熟練と云ふことが重なる原因の一つであります而して技術の不熟練は何かと云ふと技術家を優遇しないことが本だらうと思ひます、現今に於ては製鐵事業は隆盛の氣運に向ひました様であります、然らば此製鐵事業の技術家を何れに求むるかは困難であります、八幡製鐵所は開始になつて既に二十年に垂んとして居る而して其間非常に困難を致して居つたと云ふのは、矢張り技術家が少なかつたからである、書物には種々なが書いてありませう、併し之を實際に應用します中には書物に見えないやうなことが出て參ります、外國の書物には外國の鑛石で外國の石炭で外國の銑鐵で鋼を造つて居ることが書いてあります、日本に參りますれば品質の違つた石炭を使ひ、品質の違つた鑛石を使つて造らなければならぬ、是は書物に書いてある様に第一篇第一章と云ふ様な順序で行くやうな譯に參らぬと思ひます、それには一つの經驗と云ふものが必要であります、幾ら戰爭の理論に達して居つても向ふの出方が書物に書いてあるやうな戰術に出ないことが多いと思ふ、碁の定石を覚えて居つても相手が定石で無い所を打てば碁に負けると云ふやうに經驗に従つて種々な場合に遭遇する、それには種々實際を研究しなければむづかしからうと思ひます、技術家にしましても長年の問さう云ふ工合に研究と經驗とを積む必要があります。

人間は第一に生活をして行かなければなりません、學校を卒業いたしても食ふことが出来ぬと云ふことではい

けませぬから、自分は是非採鑛冶金をやりたいと思ふけれども、どうも食ふに困るから止めやう、斯う云ふことが自然生ずるだらうと思ひます、段々事業が興ればさう云ふことが無くなることゝは思ひますが技術家を優遇して安心して研究を爲さしめ経験を積ましむる餘裕を興ふることが必要と考へます、技術家の養成と云ふことも餘ほど重きを置いて研究するのが必要だらうと思ひます、それで製鐵事業の原料と、製鐵事業を掌る技術家と、此二點が一番の根本義であります。

唯今御話のやうに足らなくなつた鐵をどう供給するかと云ふ外に事業經營の方法も大に研究を要することでありませぬ、製鐵事業も或年に依つて甚しき不況があります、今日の状態を以て製鐵事業は考へられないと思ひます、歐洲戰爭の勃發する前、即ち大正三年六七月の頃は鐵と云ふものは三十七八年來の不況でありました、それが戰爭が勃發した、爲に非常に急激な變化を興へました、それで此鐵の値段の變動と云ふものは非常に大なるものでありまして世間で彼是れ言はるゝ關稅の差ぐらゐなものではありませぬ、其差が非常に大きいのであります、外國に於てはどう云ふ工合に關稅を課して居るかと云ふと、英吉利は無論昔から自由貿易主義でありまして、總てさう云ふ頭になつて居りますから、學者もさう云ふ説を唱へ、又實際家も自分の國が一番先きに進んで居つたが爲に保護と云ふことの觀念がございませぬ、併し之を最も發達しました所の亞米利加に就て見ますと、日本に對して數倍多くの稅を課して居る、獨逸に於ても無論さうであります、殊に露西亞に於ては空飛なる高い稅を課して居つて比較になりませぬ、それは直接に生産業を保護すると云ふ趣旨ばかりで來て居るのではありませぬ、近時製鐵事業と云ふものは非常に大なる組織へ行はれることになりました、小なる組織の製鐵所は大なる製鐵所に對して到底競争が出来ないと云ふことは既に十數年前に「カーネギー」氏も述べられて居ります、一萬噸造るよりも二萬噸造る方が優勢である、斯う云ふ大規模のものを造ると云ふ傾向が生じました爲に時に依つて生産超過と云ふ問題が起ります、多く生産すればする程廉く出来るから多く生産して内地に高く賣り外國に安く輸出する政策を用ゐます、英國で喧ましの「ダンピング」即ち投賣りと云ふことは此政策の結果であります例へば獨逸内地で買ふより一旦英吉利に輸出して行つて英吉利から獨逸に輸入した方

が廉い、即ち獨逸内地に高く賣り英國には非常に安く賣る然るに此英國に輸出した鐵の再び獨逸に輸入され無いのは獨逸に非常に高い關稅がある故歸つて來ることは出來無い爲めであり、獨逸の「カーテル」亞米利加の「トラスト」が種々な政策を用ゐて英國の市場を攪亂する、而して獨逸が投資りをする爲に一時非常に英吉利に恐慌を來たした、それは必要な時にいつも非常に廉いものが獨逸から買へるなら宜いが、獨逸は自國の都合の好い時ばかり安く賣つて英吉利に打撃を與へる、而して打撃を與へられたものは恢復に困難である、獨逸が利益なる時機に而已投資りをする、一年中投資りをすれば買う方は宜いが、或時だけ投資りをさるゝと云ふのは生産業者は非常に困難である消費者も又不利益であると云ふことで、英吉利に於て此妨害を防がなければならぬと云ふことを盛んに唱へられた、是れが彼の有名なる「チャムバーレーン」の關稅政策であります、それで此製鐵事業に對しても近世のやうに總て世界が共通の市場になりましたときは、さう云ふことは餘ほど眼中に置いて考へねばならぬ、我邦の運賃と云ふものは非常に高いと云ふ話があります、是は平時に於てのこととありますが、歐羅巴から日本へ來る運賃は九州から北海道に行く運賃より廉いと云ふ話があります、それで先づ技術の點は歐米諸國にも負けず、原料の點も英吉利獨逸亞米利加に負けぬのであるとして、或方法を以て歐米に害されないやうな工夫を考へて置かなければならぬ、此鐵の事業もさう云ふ次第で非常に浮沈があります、近世外國に於て「インテイグリチー、オブ、インダストリー」と言ふ言葉があります、或時は造船業が非常に不況なことがある例へば其造船材料たる鐵の値段が高く、船舶の方は廉いと云ふ場合があります、是と反對に船の値段が突飛に高くして鐵は非常に廉いと云ふことがある、又製鐵事業に於ても鐵は非常に高いけれども原料たる所の鑛石は廉い、反之鐵は下つて居つても鑛石は高いと云ふ場合があります、是は現に日本に於ても經驗して居ります、鐵が非常に不況でありました大正二年の際には石炭が非常に暴騰して居ります、近時鐵が暴騰した際に石炭が却て下落して居ります、それで「インテイグリチー、オブ、インダストリー」で、製鐵業者は自身に原料山即鐵鑛山及石炭山を所有するのみならず造船業も營み機械製造業をも經營すると云ふ傾向になりつゝあります、是が近世工業の趨勢でありまして、鐵が不況になつても船の方で儲ける、船が不況であれば機械で儲けると云ふことで、種々な

方法で利益を平均するのでありますから、其爲に事業が段々大きくなります、先きほどの川崎造船所が鐵を造ると云ふ御話は矢張りさう云ふ趨勢になつたのであらうと思ひます、如此外國に於ては大資本を投じ大規模なる經營組織と各事業が聯合する經濟組織を以て戰後世界市場に雄飛せんとする次第故我邦に於て製鐵事業を經營せんとする者も又此世界の趨勢に適應する様十分の思慮と研究あらんことを望みます。

私の申上げたことは考へて居りませぬから、前後いたしましたのが、製鐵事業の自給策と云ふものは、如何にして原料を供給するか、斯う云ふ方法を具體的に考へまして、原料の供給を考へると云ふことと、技術の進歩を圖ると云ふには技術家を優遇し、或は之を養成すると云ふことが一番必要なりと云ふことであります、平素から此の二點に付ての方法を御講じになつたならば鐵の自給策と云ふことも根本的に解決せらるゝことと考へます、どうも咄嗟であつて申上げることもございませぬ、少し長くなつて十五分を過ぎたか知れませぬが、甚だ失禮を致しました(拍手)

鐵鋼の獨立自給策に就て

高 崎 親 章

私が高崎でございませぬ、本日當會の幹事の方から御案内狀が出ましてそれに私が講演を致すやうな名前が載せられてありましたが、實は私は承知して居らなかつたのであります、是は私の關係者の方から責任を以て私の名前を出したと云ふことであります、肝腎の私に於ては承知しませぬ、甚だ以て當惑して居ります、殊に私は皆さんの中には御承知か知りませぬが官海に聊か履歴を持つて居りますが田舎の庄屋をした位の人間でありまして製鐵とか製鋼とか云ふことには全くの素人であります、學識はなく實驗はございませぬ、學者専門家の大勢お集りの所に於て講演を致すやうな資格はございませぬ、故に今日は何か申上げますけれども決して皆様が耳をお傾けになるやうなことは申されませぬからそれは豫め御承知置を願ひます、併し私も日本製鋼所と云ふものに責任を取て居ります者でありますから此の責任上何も知らない、自分には腹案はないと申しまして、此の資本主に對して申譯がありませぬ、又社會に對し